



『国史大辞典』

・枇榔毛車(ビラウゲノクルマ)

成之に居し、義経も亦暫く之に居たりと云ふ(平泉志)

ビラウゲノクルマ

檳榔毛車

牛車の一

種、檳榔の葉を細くさきたるものにて、車體を覆ひし車を云ふ、檳榔なき時は菅を用ふ、單に毛車とも云ふ、太上天皇以下四位以上のもの之を用ふ、又女官、僧正法印大僧都等の僧侶も之に乗る、然れども庶半部、物見簾以下階級によりて差あること勿論なり、飭抄に簾蘇芳(縁浮線綾)下簾(蘇芳下濃)鞆(連着革鞆)疊(纏網端)榻(大臣黄金物、納言已下黒漆金物、執柄家納言間散物、大臣之後黄金物)とあるにて其一斑を知るべし、牛車(ギツシヤ)及び同條の挿繪を見るべし(西宮記、桃花薬葉、飾抄、門定有職抄、輿車圖考)

ビラウヒサシノクルマ

檳榔廂車

牛車的一種、車體の前後及び物見の上に廂ある檳榔毛の車を云ふ、又檳榔毛廂車とも云ふ、眉の唐棟の如くなり、又雨眉とも云ふ、太上天皇、親王、攝關大臣等之を用ふ、牛車(ギツシヤ)及び同條の挿繪を見よ(飾抄、有職抄、輿車圖考)

ヒラヲ

平緒

名義 束帯の時裝飾として袍

の上に着くる平組の緒、劔の具なり 古くは、太刀の帯の結び餘りを、長く垂らしたりしが、後世全

『国史大辞典挿絵及年表』

- 「牛車之図 一（輿車図考附図所載）」

